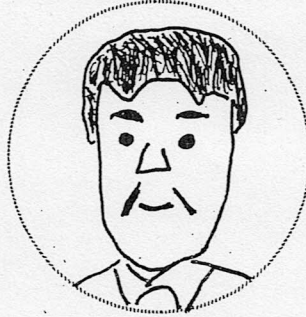


学校だより 希望の鐘

ひとつの希望はいつしかひらかない



八戸市立 小中野中学校

平成30年10月19日(金)

No.134 文責：校長
工藤聡

合唱コンクール 魅せた（見せてくれた）3年生の底力

今日が10月19日ですから、いよいよ文化祭まで2日となりました。舞台発表・展示とも、順調に練習や準備が進んでいるようです。一部、間に合うか？と心配している生徒もいるようですが、大丈夫です。いつも（毎年）必ずギリギリになっても間に合ってますから。

さて、そんな文化祭や体育祭とならんで、みなさんが三大大行事と言っている合唱コンクールが一週間前に行われました。合唱コンクールは、体育祭と同様、各クラスの団結力を発揮する行事です。しかし、体育祭と根本的に違うのは、体育祭は気力や体力を結集させて、目に見える形で激しいエネルギーを発散させる行事であるのに対して、合唱コンクールは一人ひとりの感性や表現力を最初から共有しながら、静かなエネルギーを音楽（芸術）の形で発表する行事だということです。もっと具体的にいえば、体育祭はいっぱい失敗しても、最終的に終わってみれば成功（最後までバラバラでも、最後にまとまればそれでOK）といえる「勢いが大事な行事」であるのに対し、合唱コンクールは小さなことを積み重ねながら、コツコツと創り上げていく（最初から小さくまとまりながら、それを最後は大きなまとまりにしていく）「繊細な行事」であることです。クラスごとの練習では、思うように合唱がまとまらなかったり、時にはぶりかき合うこともあったと思います。そういったことも含めて、みなさんは気づかないかもしれませんが、各クラスには体育祭とは違った「絆」が生まれていたのだと思います。絶対に！

では、みなさんの合唱を聴いた私の感想を記載します。

最初の演奏だった1年2組ですが、いろいろな面でバランスがとれていて、とても聴きやすかったと思います。1年1組は、紹介のアナウンスでも「音はずれても思いっきり歌う」とありましたが、課題曲、自由曲とも元気でした。1年生の合唱を聴いた地域の方（子どもさんが3人いて、もう10年以上続けて聴いている方です）は、「1年生の合唱は良かったですね。1年生としては、ここ何年かで最高だったと思いますよ」と私に話してくれました。私も女子の歌っている時の表情が、とてもよかったと思いました。

2年1組は、男女ともに声がドーンと伸びてくるような迫力がありました。2年2組は、荒けずりでしたが、ものすごい可能性を感じさせる合唱でした。しっとりした自由曲にも対応できる適応力もあったと思います。来年の合唱コンクールには私はいないわけですが、3年生になった時の合唱を聴いてみたいと心から思わせるものが、2年生の合唱にはありました。

3年生ですが、発声練習を兼ねた学年合唱からクラスの発表まで、「さすが3年生！」という底力を魅せて（ミセル：魅了する→人の心を引きつけてうっとりさせること）くれました。審査員の平野日枝子先生も、「3年生はあっぱれ、素晴らしい。盛り上げてくれた。」と講評で述べていました。3年1組は、女子の口の開き方が特によく、そのため声量もありました。男子も口を開けた時は、やはり女子と同じような点で引きつけるものがあったと思います。「ぼくらの出会いを…」という箇所と さんや さんのソロの部分はグッときました。3年2組は、最後を飾るにふさわしいものがあり、特に男女の声が一緒にそろった時は、メロディにのった歌詞がまるで押し寄せてくるような気がするくらいでした。 くんには、お姉さんと同じくらいの表現力を感じました。

世の中にはさまざまな音楽があり、それぞれ違った魅力があります。小中野中の合唱コンクールにおいても、6クラス6種類の見せ場があったと思います。課題曲と、各クラスが選んだ自由曲を通して、6クラス6通りの想いとメッセージを感じとることができました。みなさんの発表した合唱は、物理的な作品としては一瞬で消えてしまいました。しかし、指揮者に集中し、伴奏者の奏でるピアノに合わせて歌ったことで、その感動は聴く人の心に残ると思います。来校されたみなさんの保護者の方々が、口々に「良かったです」と言って満足した表情で帰って行ったことから、そのことがよくわかりました。その感動を、明後日の文化祭で、もう一度味わいたいと思っています。

築地に関する思い出

ここ最近、築地や豊洲に関する話題が、ニュースやワイドショーをにぎわしています。それは「日本の台所」として親しまれた築地市場が、10月6日に83年の歴史に幕を閉じて営業を終え、そのかわりに豊洲市場が11日に開業したからです。築地も豊洲も、単なる水産物や青果を扱う市場としてだけでなく、観光地としても有名（豊洲は今から話題になっている）なことも、報道合戦に拍車をかけて（ハクシャカケル：物事の進行をいちだんと早めること）いるようです。

ところで、私は18歳から26歳の半ばまで東京にいましたが、その間いろいろなアルバイトをしたことは、この学校だより等で何度か話をしたので、みなさんも記憶があるかもしれません。引っ越し屋さんの助手（大田区の池上本門寺近く）、タクシーへ給油するスタンド（飯田橋の首都高速の下）、居酒屋（渋谷の東急百貨店本店近く）は、6か月以上続けました。そのほか、映画やテレビドラマのエキストラ、そば屋の出前、結婚式場の皿洗い、工事現場のガードマン、学習塾の先生など30種類以上です。その中に、築地でのものもありました。なぜこんなにも多種多様なアルバイトができたのかというと、西武新宿線の下落合駅（新宿から一駅か二駅）近くに学生援護会というアルバイト紹介所（もちろんお金を払う必要はありません）があって、そこで紹介してもらっていたからです。

築地でのアルバイトは、毎年12月の10日前後から12月30日までの約3週間で、朝の6時から午後2時までの8時間でした。6年間続けました。朝早いにもかかわらず、時給500円でバイト代としては高いといえないのですが、朝ご飯と昼ご飯の2食ついていることがなんとも魅力でした。全国チェーン〇〇家の牛丼を初めて食べたのもこの時でした。

私のアルバイト先は、築地場外の「海老〇商店」というお店でした。「海老」という名前はついていますが、エビは扱っておらず、カマボコの間屋さんでした。おもに、カマボコ製造で有名な小田原からの物（籠清一かごせい、丸うーまるう、鈴廣一すずひろ等）を近くの小売店に卸していました。築地に魚を買いに来る人も、何軒もお店をまわってはい時間がかかるので、築地場内の魚を扱っているところでカマボコも買うのでそこに持って行ったり、築地を少し離れた和食の店やラーメン屋さんにかまぼこを届けるのが仕事でした。場内では、今回の報道で何回も出たターレ（リヤカーにドラム缶のようなエンジンをつけたような乗り物）が傍若無人（ボウジャクブジン：人のことなどまるで気かけず、勝手にふるまうこと）に走り回って、すごい喧噪（ケンソウ：物音などでうるさく騒がしいこと）でした。場外の届け先で最も遠かったのは、日本橋にある和食レストランで、自転車だと往復40分くらいかかりましたが、12月の冷たく乾いた風をきって自転車を走らせるのが、何とも心地よかったことをおぼえています。今回の移転のニュースを見て、当時を思いだし「海老〇商店」をネットで検索してみたのですがありませんでした。あれから35年以上も経過していますから、もしかするとお店をたたんで（ミセヲタタム：店をやめること。商売をやめること）しまったのかもしれない。

人は暮らして（生活して）いくことで、いろいろな思い出を積み重ねていきます。「いい思い出」だけであればいいのですが、もちろん「思い出したくもないこと」等いろいろです。しかし、できればその全部が懐かしく、楽しいものであればそれにこしたことはありません。明後日の文化祭も明日の前日祭も、コナ中生にとって「いい思い出」になればいいなあ…と心から思います。

【今日のひとり言】

- 一昨日、前日祭のオーディションが行われました。エントリー5組中のコントを披露することになっていた1チームが出演をやめたということを知りました。楽しみにしていた私としては残念ですが、ほかの4組は大丈夫だということでホッとしています。開始予定時間は正午（お昼の12時）となっています。今年度からは、保護者の方々にも公開することにしておりました。ご覧になりたい方はどうぞおいでください。開始時間は多少前後するかもしれませんが、それはご了承ください。
- 今日の19日から、コミュニティ放送局BeFM (76.5 MHz)の毎週金曜日午後7時からの『ハチスポF』という番組に、本校の運動部が出ます。番組最初の15分くらいです。10/19野球部・10/26ソフトテニス部・11/2卓球部・11/9男子バレー部・11/16女子バレー部・11/23剣道部です。
- 今日の私の似顔絵は、 年組の くんを描いてもらいました。 くんが所属している野球部は、13日と14日に開催された「南部州オータムカップ」の予選リーグを3戦全勝で勝ち抜き、10月27日と28日の本選出場を決めました。3勝ともすべて1点差の接戦をものにしたのですが2試合目の長内中戦と3試合目の浄法寺中戦は1対0でのサヨナラ勝ちだったそうです。特に、浄法寺中との試合では、ノーヒットのまま7回裏の攻撃を迎えたのですが、 くんの初ヒットに続き、代打で登場してヒットを打ってサヨナラ勝ちのきっかけをつくったのが くんでした。（サヨナラヒットは くんです。）長根球場で行われる本選でも、頑張ってもらいたいと思います。